

ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ ノーモア・フクシマ

核兵器の全面禁止、放射線被害の根絶を

東日本大震災・福島第1原発事故から1年。いまでも多くの住民の方々が避難生活を余儀なくされ、原発事故による放射能汚染が続き、多くの国民に不安を与えています。

原発は、ひとたび事故が起これば「制御不能」な未熟な技術であることが明らかとなりました。「死の灰」を安全に処理する技術はありません。原子力利用の最悪の形態は核兵器の使用です。広島ではわずか800グラムのウランの爆発で14万人の命がその年のうちに奪われました。

私たちは、ヒロシマ、ナガサキ、そしてフクシマをくりかえさせないために、放射線被害の根絶と原発からの撤退と自然エネルギーへの転換を求める世論と運動に連帯し、核兵器のない世界を求める運動を大きく発展させます。

核兵器のない世界へ、いまがチャンス

ことは4月30日にオーストリアの首都ウィーンで、次回（2015年）核不拡散条約再検討会議の第1回準備会合が開催されます。すでに世界の反核平和運動や平和市長会議など自治体の運動、市民社会の多様な運動が、核兵器全面禁止の交渉開始にむけた前進をひらくために行動を始めています。

日本国内でも、昨年2月に開始した「核兵器全面禁止のアピール」署名が、780人の自治体首長の賛同を得て全国にひろがっています。被爆地長崎の田上富久市長は、「署名は市民の意思を表明するツールとして大事であり、国際的にも大きな変化がある時期で、今がチャンス」とよびかけています。

日本政府にイニシアチブの発揮を求めよう

核兵器のない世界へチャンスが訪れているときに、日本政府は、昨年の国連総会に提出された核兵器禁止条約の交渉開始をもとめる決議に棄権しました。唯一の被爆国にふさわしい役割を政府に発揮させるために、世論と運動をつよめましょう。

日本原水協は、次回NPT再検討会議の準備会合にあたり、すべての国の政府と市民社会に、核兵器全面禁止にむけて行動を起こすよう呼びかけ、ウィーンの会議場と市内で、広島・長崎の被爆の実相を伝える写真展を開催します。

これにあわせて、日本国内でも全国47都道府県で「被爆写真展」をひらきます。これをすべての自治体での開催に発展させ、地域・住民ぐるみの署名をひろげます。ぜひ「被爆写真展」や署名へのご協力をお願いします。

（2012年3月6日）

※「被爆写真展」の開催情報などは日本原水協のホームページに順次掲載します。URLは<http://www.antiatom.org/>



原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4
TEL.03-5842-6031 FAX.03-5842-6033
<http://www.antiatom.org/>